

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100204		
法人名	(有)ゆたか		
事業所名	グループホームゆたかの郷		
所在地	宮崎市高岡町小山田65番地4		
自己評価作成日	令和4年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和4年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりの日々の生活状況や、ご病気・趣味・人間関係・人的環境、社会的な係りなど、情報をできるだけしっかりと収集し、職員間で共有ができる。ご利用者の尊厳を意識し、グループホームゆたかの郷で穏やかに、その人らしく生活をして頂けるように、しっかりとチームケアを行いながら支援をしていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郵便局、小学校を挟んだ場所に位置している。隣接する有料老人ホームと協力体制がとれており、職員の交流もある。居室にはベランダがあり、外の風景を楽しむ事ができる。コロナ禍でも、小学校の登下校時に児童に手を振ったりする事で双方の楽しみとなっている。職員は入居者のペースに合わせてゆったりとした空間を演出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティングでスタッフ全員で理念を輪唱、意識して、ケアの実践を行っている。	「ゆったりと穏やかな生活」「たくさん笑顔」「家族の想いで」の理念に基づいて、朝の申し送りの時に唱和し、理念の遂行に努めているが、理念はグループホーム設立当初のものである。	現在の状況に即した理念を、管理者と職員皆で話し合い共有することで、さらに入居者に寄り添った実践に繋がることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内行事や、地域サロンへの参加など、コロナウイルス感染症の影響にて、実施困難な状況となっている。	自治会には加入しているが、コロナ禍にて地域の活動は自粛されている。道路端の花壇の手入れを行っている。小学生の登下校時、手を振る事で双方の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流の際に、地域の方と利用者が、直接交流を行い、認知症への理解をして頂くようにしているが、コロナウイルス感染症の影響にて実施が困難な状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見・要望は謙虚に受け止め、スタッフと話し合い、早急に反映し、サービスの向上に努めている。	コロナ禍にて、集合しての開催は困難となっている。便りに活動の状況の写真を載せて、報告している。返信のためのはがきで委員の意見を聞こうと試みているが、返信は少ない。	現在の課題を挙げ、それに対する意見を聞く等、意見が出やすい方法を考えて、サービス向上に生かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターを窓口、後見人の相談を行っている。介護保険関係は、市役所の担当課へ連絡を行い、内容の確認を行っている。	成年後見や家族間のトラブル、家族がいない方の対応等の相談にのってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて、身体拘束を行わない介護を確認している。	3ヶ月毎に、身体拘束廃止委員会で事例を基に話し合いを行っている。マニュアルも作成し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の気持ちや言葉を意識し、入居者の意向を尊重し、虐待と感じられたり、見られたりするようなケアを行わないように、スタッフ同士で意識し声掛けを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域での研修や、リモートでの勉強会に参加できるように支援している。コロナウイルス感染症の影響にて研修が少ない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、契約書に沿って具体的に説明を行い、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に頂いたご意見や、地域交流の際にスタッフが参加し、意見交換を行い運営に反映している。現状、コロナウイルス感染症の影響にて面会の制限をおこなっている。	コロナ禍にて、ライン等を利用して面会を行っている。その際に家族の意見や悩みも聞き、その都度対応している。少しずつ面会を始めているところで、面会時にも意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会への参加を促している。また、個人面談を行い、意見や提案を行っている。会議にて出た要望や意見は、スタッフへ周知し、サービスの向上に繋げている。	管理者は、現場で職員の意見を聞くようにしている。入居者の状況や物品購入に対する意見が多く、その都度対応している。異動に関する事は、上司に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表作成時に面談を行い、キャリアパス等の説明を行い、スタッフの意識向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表を活用し、改善点を把握し、弱点をなくせるように育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での勉強会や研修会へ参加し、他施設との情報交換を実施。現状、コロナウイルス感染症の影響にて困難な状況となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聞ける機会や環境を設けて、信頼関係を築けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接の際に、ご家族からの意向を傾聴し、記録を行う。大切な事は、その都度話し合いの場を設け、その都度記録を残している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集をしっかりと行い、スタッフ間での情報を共有し、ご家族がいつでも気兼ねなく話のできる環境の整備を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のその時々不安を解消し、施設での落ち着いた生活を継続していただけるよう、チームケアで対応を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じて、施設行事への参加や、外出支援の声掛けを行い、穏やかに生活が送れるように環境整備を行う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の会いたい方や、本人の知人(地域の方)等に声掛けを行い、食事会やお茶会への参加や、地域サロンへの参加を行っている。現状、コロナウイルス感染症の影響にて困難な状況である。	コロナ禍にて、以前のような活動は出来ていないが、電話やライン等で家族との関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せず、スタッフが一人ひとりの利用者さんの人的関係を把握し、人的環境が円滑に進むように支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の状況に応じたサービスや医療機関との連携を図り、その人にとってより良い支援や助言を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションやカンファレンスにて意向を確認し、ご本人とご家族を交えての話合いの場を設ける。	コミュニケーションがとれる方には、直接聞いている。とれない方には、表情やしぐさで思いや意向をくみ取るようにしている。家族が本人の好きなビデオ等を持って来てくれて、よく見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や紹介機関からの情報収集、状況の把握を行い、サービス計画を作成し、モニタリングをしっかりと行い、入居者の精神面や身体面の変化に合わせて、環境の整備を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報の共有を行い、その都度外出支援やドライブ等の個別の支援を行っている。気づき等あった際は、その都度記録を行い、反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を職員間にて見直し、勉強会にて検討し、実践できる計画を作成している。	担当制であり、計画作成担当者と意見交換を行いながら介護計画を作成している。家族の意見は、担当者会議で確認している。介護計画は職員全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をしっかりと行い、申し送り簿を活用し、日々のミーティングにて支援の検討を行い、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態やADLの把握を行い、福祉用具の見直しなど、サービスの多機能の支援も伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流の場を設け、地域の一人として支援を行い、サロンや行事に参加し、また施設への招待を行い、交流を行っている。現状、コロナウイルス感染症の影響にて困難な状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況により、主治医の検討を家族と共に行い決めている。状況に応じて専門医への受診を行っている。	主治医は入居者それぞれである。協力医療機関からは週2回の往診がある。必要時には職員が専門医を受診している。医師からの情報は職員全員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がスタッフ間の状態報告や気になる事を迅速に判断し、主治医への連絡調整を行い、迅速に対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の連携室との連携を図り、状態把握や情報の収集を行い退院の支援を行う。また、退院に向けてカンファレンスの計画を迅速に行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時やカンファレンスにおいて、ご家族と本人の話し合いの場を持ちながら、どのような人生の終焉を迎えたいか、また迎えさせたいかを傾聴し、スタッフ間での情報の共有を行っている。	重度化・看取り指針を作成している。入居者の状況によって、家族の考えも変わるので、その都度家族の意見を聞きながら対応している。治療を望まれれば、病院を紹介する。今までに1名の看取り経験があり、今後望まれれば対応可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の判断は、日中は看護師を中心とし、看護師の適宜な判断で出勤者と迅速に対応するように指導している。夜間においては、夜勤者が、宿直者や管理者に連絡を行う。日中、夜間ともに迅速な対応が行えるように指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。地域との協力体制も整えている。	コロナ禍にて、地域との避難訓練は行っていない。年2回は消防署、専門業者との避難訓練を実施している。入居者はその時の状況を見て、参加している。備蓄品は有り、職員・入居者と試食もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護に留意し、本人の尊厳を損なうことのないようにスタッフ間で声掛けを行いながら対応をしている。	職員会議で、実際にあった事例を基に研修を行っている。言葉遣いで気になる事があれば、都度その場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者がらでた要望は、しっかりと傾聴し早急に受け入れる。職員間での情報の共有を行い、利用者の自己決定をできるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人の人として周囲に受け入れられ、尊重され、自分で自分の価値を日々感じられるようにケアをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で衣類の選択や、お化粧品など、本人の意向を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嫌いな献立は、代替食を準備する。職員との配膳や、談笑を交えながら会食を行い、出来る方には片付けを手伝ってもらっている。現在は、コロナウイルス感染症の影響にて利用者と一緒に食事は行っていない。	全体の厨房で作った食事を配膳している。菜園で収穫した野菜を献立に取り入れている。コロナ禍にて、職員と一緒に食事はしていない。できる方には片付けを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好を大切に、水分や補食を行っている。記録を行い、水分量の少ない方には本人の代替品を提供する。また、食事形態も状況に応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその方にあった支援を行いながら、口腔ケアを行っている。お茶でのうがいを促すこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄状況をその都度記録し、職員間での情報の共有を行い、チームケアを行っている。排泄の質の向上を認識し、介護用品の検討も行っている。(布製品やパッドを適切に選択する)	入居者一人ひとりのパターンをみて誘導している。そわそわする様子等をみて誘導することもある。福祉用具の会社と相談して、個人にあった用品を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質や乳製品、水分摂取を考慮する。また、体操や歩行訓練、腹部のマッサージ等、一人ひとりにあった支援を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回の実施は当然であり、排泄で失敗があった時など対応を行っている。入浴の時間に関しても、ご利用者の状況に応じて支援を実施している。	週3回の入浴を行っている。拒否等があったら、時間をずらす、職員を変える、翌日への入浴等に対応している。一人で入浴する方が2名いる。シャンプーは好みの物を使われる方もいる。ゆず湯や、入浴剤の利用もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ夜間に良眠していただけるよう、日中の余暇対策を個人の嗜好に配慮しながら過ごしていただいている。また、眠くなるまでは、職員と一緒に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援に関しては、職員一人ひとりに慎重な対応を行うように促している。また、状況により看護師より主治医へ連絡を行い、受診や調整の指示を受けて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに満足感や喜びのある生活をしているという認識を持っていただけるように支援を促している。役に立っているという自信につながり、生活にも張り合いや充実感を持っていただけるよう対応をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度の支援を職員間で連携を図り、散歩やドライブ等を実施している。家族との外出や本人のご意向での故郷訪問、施設行事やサロンへの参加など協力を頂いている。現状、コロナウイルス感染症の影響にて困難な状況である。	天気の良い日はおやつを持って公園に出かける。玄関先の外で食事をする事もある。散歩やドライブ等、現状で出来る事は行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれているかたは少ないが、持っていないと不安な方は、その都度買い物の支援や飲み物の購入の支援を行っている。また施設立替で欲しいものの買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話は掛けて頂いたり、職員がご本人のご意向をお伝えしている。手紙に関しては、郵便局へ職員と同行して対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に臭いがなく、明るい空間が保てるように配慮している。時代感のある嫁入り筆筒をリビングに設置し、出来るだけ落ち着いた雰囲気与生活して頂けるように配慮している。	明るい空間には、時代を感じさせるタンスが置いてある。壁には職員と一緒に作った作品や、絵心のある職員がそれぞれの入居者の絵を描いて飾ってある。温かい雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや居室での利用者間の会話は、一人ひとりにの意向で対応して頂いている。リビングのソファやテーブルのレイアウトにも配慮し対応を行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の気に入られた品物は、身の回りに持ってきて頂いている。一人ひとりのご意向を把握し、一緒に配置や模様替えを行い対応する。	ベッド、タンス等はホームで準備されている。自宅から、使い慣れたタンスやテレビ等も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒や自然災害のリスクを常に配慮し、安全に生活して頂けるように職員が認識して支援できるように環境面を整える。事務所のボードを活用したり、申し送りでの情報の共有を行い自立支援を行っている。		